



堀江透さん「つくば市在住」

自分の戦略が
当たっていたことの満足感。
その積み重ねが自信になる。

2016年史上最年少プロ棋士としてデビューした藤井聡太さんの活躍で、今、空前の将棋ブームに沸いています。同じルールのもと、ハンデもなく、小さな子どもからお年寄りまで幅広い年齢層の人々が一緒に楽しめるというのも、将棋の魅力です。しかも、高度な頭脳戦を繰り広げる中で、遊びながら論理的な思考回路を身につけることができると、このころ、将棋を覚えたいという子どもたちが急増しています。

将棋のテクニクだけでなく、
礼儀作法や生き方も教えたい。

地域の人が集い、交流できる場になればと願い、自宅のリビングルームを開放し、将棋好きの皆さんに向けて「つくば将棋サロン」を開いたのは、2015年の初めのことでした。その翌年には、皆さんもよくご存知のように「藤井聡太」さんの存在がテレビなどのメディアで取り上げられ、その活躍が加速した2016年、大手企業が運営するカルチャークラブから要請がありまして、地元のモール内の「こども将棋教室」で講師を務めることになったのです。小学生を対象にした教室ですが、テレビの影響はすごいですね。お母さまがたも「藤井くんみたいな子にしたい」と考えて「自分のお子さん



状況判断と思考のトレーニングで
どんな局面も乗り切れる力を育む。

私が将棋をやり始めたのは、小学生ぐらいからですね。その頃から、とにかく実験をするのが大好きな子どもだったんです。なんでも自分で実験して試してみないと気が済まないんです。中学生になると、お小遣いをコツコツと貯めて薬品を買い、自分の部屋に自分の「薬局」のようなものをこしらえ、その薬品であれやこれや実験を繰り返すのが何よりも楽しかったんですね。決して学校の勉強が好きで得意だったのではないんです。自分の好きなことだけに夢中になる。そういう意味では好奇心旺盛な子どもでした。そんな興味が高じて大学では薬学部で学び、卒業後は製薬会社で医薬品の研究開

を連れて来られる。今の子どもさんは、スマートフォンやゲームで時間を消費していますが、将棋は論理的な考えや対局観を育むことができます。これは人生を生きしていく上でも大事なことです。しかも将棋にはストーリーがあり、今を変えることで、未来を考えられるようになります。カルチャークラブで子どもたちに将棋を教えながら、さらにもっと私自身の考えを反映させながら子どもに将棋を指導したいと考えるようになり、自宅での大人向けの将棋サロンに「つくばこども将棋塾」を増設したのです。「塾」と名付けたのは、将棋のテクニクだけでなく、礼儀作法や人生、生き方なども教えたいからです。将棋を通じて、地元つくばの子どものための思考力の向上と勉強に対する集中力を高め、将来は様々な分野の研究開発で活躍する独創性に秀でた科学者を育てたいという想いで子どもたちの指導をしています。



「つくばこども将棋塾」は、毎月第2・第4土曜日に自宅で開校。「子どもが自らやりたいと希望することが大事」。現在9歳から11歳の児童が通っているというが「素質のある子がいますよ」と嬉しそうに語る。

発に取り組んできました。仕事ですが、そのスタンスは少年の頃と同様に、「もっといいもの」「もっと優れたもの」を追求する好奇心と探求心が原動力になっていましたね。製薬会社時代も将棋部に属して、切磋琢磨を重ねてきました。会社員時代に「いぶんと棋力も身についたと思いますね。製薬会社では、若手の研究者の育成にも従事するようになるのですが、その経験で実感したのは、学業は優秀なんでしょうが、与えられたことは確実にクリアするけれど、自分から何かを創造するというような独創力のある若者がいないということです。受け身の勉強勉強だけしてきた弊害でしょうか。その点、将棋は相手と一手ずつ交代で指し、刻一刻と変わる状況にその都度対応し、状況を客観視して判断する力が身に付きます。受け身ではないのです。もちろん、大切なのは勝ち負けだけではありません。将棋を通じて同世代や大人、お年寄りとの対局しながら、人に対する礼儀や自信を持って物事に取り組む力を身に付けてほしいのです。

堀江透(ほりえ とおる) 「つくば将棋サロン」「つくばこども将棋塾」代表。製薬会社を早期退職し、会社を設立。研究者の育成やコンサルティング、学会や講演会などのため全国を飛び回る多忙な日々。「肩書」より「生涯現役」をモットーに「求められる役割」を全力で果たしていきたい。1女2男の子どもたちは独立し、妻と旅行や温泉巡りを楽しむ。

取材協力：ディ・スリー研究所「つくば将棋サロン」
<http://www.d3researchlabo.com/shogi.html>

